

宮城県考古学会設立経過および総会報告

宮城県考古学会幹事長 高倉敏明

1 設立の経過

本県において考古学会の設立は、かねてからの懸案であった。それをやや具体的に考える切掛けになったのは、1991年11月の日本考古学協会宮城・仙台大会である。

大会は、100名を越える協会員をはじめとする県内の考古学関係者により実行委員会が組織され、一致協力して大会の準備・運営に当たった結果、充実した大会にすることができ、成功裡に終了することができた。そして、若干の余剰金もできたことから翌年1月30日の大会実行委員会において、この剰余金をもとにして「宮城県考古学会」を設立してはどうかという提案がなされ、10名からなる「設立準備世話人会」（以下「世話人会」という）が発足したのである。

しかし、諸般の事情により具体的な動きがないまま時が過ぎ去り、年を重ねて来たところである。

こうしたなか、1997年に入って学会を立ち上げるための動きが始まり、8月30日に「宮城県考古学会設立準備会」（以下「準備会」という）が組織されたのである。準備会は、大学関係、個人研究者、行政機関などで考古学に携わっている県内の有志22名で構成され、設立に向けて組織体制、会則、事業等の原案を作成して世話人会に提案し、さらに、検討を重ねて世話人会と準備会が一体となって成案としていくことにした。

第1回準備会議では、設立の趣意について、検討内容について、設立準備会の体制について、今後の進め方について意見交換を行い、4部会（総務、会則、事業、会報会誌）を設置して検討を行うことにした。9月27日の第2回準備会議では、早くも発足時期の話題が出され、来年5月を目標に逆算して会議日程を決めるなど、「短期決戦」に向けて精力的に検討会がもたれた。11月1日には第3回準備会議、11月29日には第4回準備会議が行われ、各部会での検討事項の報告、協議を重ね、会則案等の原案がまとまった。

年も改まった正月10日、第1回世話人会が開かれた。席上およそ3ヶ月でまとめ上げた会則・内規案、組織構成と役割分担、収支予算案等について準備会から説明が行われ、ほぼ大筋で了解が得られた。此处に来



て、ようやく県考古学会の設立が現実のものとして感じられた。そこで、これ以降は、設立総会の開催に向けて世話人会と準備会の合同会議として細部の検討が行われた。

2月21日の合同会議では、会則および細則と内規の検討、事務局の設置場所について、学生会員の問題、会誌・連絡紙の刊行等について話し合いがもたれ、3月21日の第2回合同会議で、会則・細則案が決定し事務局も東北大学考古学研究室に置くことで了解が得られた。また、前回の合同会議から設立総会に向けての準備作業についての検討も始まり、総会の期日を5月17日(日)、会場を仙台市博物館とすることに決定した。設立総会后、記念講演会を行うことになり、講師として東北大学名誉教授・東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館長の芹沢長介先生をお迎えすることで満場一致する。

4月春陽を迎え、案内状・入会申込書・配布先リストの作成、総会資料の作成等の作業が分担して進められ、さらに講師をお願いしていた芹沢先生から講演の快諾をいただき、宮城県考古学会の設立はいよいよ秒読み段階に入る。4月18日の合同会議は、設立総会の準備状況の確認と案内状の発送作業を行う。発送作業には学生諸君の多大な応援をいただいた。総会を一週間後に控えた5月10日に最終の合同会議が開催され、設立総会の役割分担と当日の準備を確認し、総会資料の確認、役員選出の確認を行って、当日を迎えることになった。

2 設立総会の報告

1998年5月17日(日) 曇り一時雨後晴れ 気温23.1° 湿度86%

総会当日は、昨夜から降り続いた雨が小降りになりはじめた午前10時頃から準備会員が集まりはじめ、手伝いの学生諸君を加え予定通り10時30分から役割分担の最終確認が行われた。皆一様にこの日を迎えた喜びで会議室内には熱気が満ちあふれ、準備作業も短時間のうちに終了した。

雨も上がり、青葉に春の日差しが輝きはじめて午後2時、およそ100名の考古学関係者出席のもと司会進行役木村浩二の発声により設立総会が始まった。はじめに設立発起人会代表の須藤隆が登壇し、宮城県考古学会設立に係る経過説明が行われた。続いて総会議事に入る。先ず、議長団の選任が行われ議長に辻秀人、副議長に鈴木勝彦、書記に佐藤正人、故阿部正光が指名された。

議事は次のとおりである。

- (1) 議案第1号 (仮称) 宮城県考古学会会則(案)・同細則(案)について
- (2) 議案第2号 (仮称) 宮城県考古学会平成10年度事業計画(案)について
- (3) 議案第3号 (仮称) 宮城県考古学会平成10年度収支予算(案)について
- (4) 議案第4号 (仮称) 宮城県考古学会第I期役員の選出について

説明は、議案第1号を高倉敏明、第2号を阿子島香、第3号を佐々木和博、第4号を白鳥

良一が担当し、原案通りに決議された。ここに、宮城県考古学会が設立したのである。

議長団の退任後、祝電の披露が行われ、会長の挨拶となった。初代会長の桑原滋郎が登場し、「待望久しかった県考古学会の誕生を心から喜びたい。これからは、本会が共通の土俵となって研究者同士の壁を取り払って活発に議論を交わしてほしい。」と挨拶し、総会は無事終了した。この時会員数は、221人であった。

午後3時から設立記念講演会が開催された。一般公開とあって、200席を有する講堂はほぼ満席の状態であった。後援会の司会進行は梶原洋、講師紹介は須藤隆が行う。

演題 「旧石器と共に50年」

講師 東北大学名誉教授・東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館長 芹沢長介先生

旧石器の研究で常に学会の先陣を切ってこられた先生の半世紀にわたる調査研究の成果をスライドを使ってわかり易くお話いただいた。そして、50年間の研究活動を90分に凝縮して熱弁を奮われて姿にただただ感激した次第である。

午後4時30分、設立総会行事は、予定通り無事に終了した。この1時間後、会場をホテル白萩に移して行われた懇親会は、49名の人数以上に盛り上がりを見せたことは想像におまかせしよう。(敬称略)

宮城県考古学会第1期役員

- ◎会 長：桑原滋郎 ◎副会長：須藤 隆 ◎幹事長：高倉敏明
- ◎幹 事<県北部> <県中央部> 佐久間光平（連絡紙）
- 故阿部 正光（会誌） 石川 俊英（連絡紙） 田中 則和（総務）
- 大場 亜弥（連絡紙） 手塚 均（会誌） 相原 淳一（総務）
- <県北西部> 阿部 恵（企画） 佐々木和博（総務）
- 佐藤 信行（会誌） <仙台市> 斎野 裕彦（企画）
- 鈴木 勝彦（企画） 阿子島 香（総務○） <県南部>
- <県北沿岸部> 藤沢 敦（連絡紙○） 恵美 昌之（会誌）
- 鈴木 実夫（企画） 辻 秀人（会誌○） 斎藤 彰裕（連絡紙）
- 岡 道夫（連絡紙） 木村 浩二（総務） 芳賀 寿幸（総務） 括弧内は所属幹事会
- 會田 容弘（企画） 村田 晃一（企画○） 佐藤 正人（会誌） ○は各幹事会の代表幹事
- ◎監 事：工藤雅樹・進藤秋輝

宮城県考古学会会則

(名称)

第1条 本会は、宮城県考古学会と称する。

(目的)

第2条 本会は、宮城県を中心とする考古学の調査研究と会員相互の情報交換を通じて考古学の発展と普及に寄与し、会員の資質の向上と親睦を図ることを目的とする。

(会員)

第3条 本会は、前条に掲げる目的に賛同する者をもって会員とし、入会に際しては所定の会費を納めるものとする。ただし、2年間未納の場合は会員の資格を失う。

(事業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 研究会、発表会、講演会等
- (2) 会誌、連絡紙、その他の出版物の編集・刊行
- (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。その任期は2年とし、再任は妨げない。

- (1) 会長1名
 - (2) 副会長1名
 - (3) 幹事長1名
 - (4) 幹事若干名
 - (5) 監事2名
- 2 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
 - 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。
 - 4 幹事長は幹事を総括し、会務全体の連絡調整を担当する。
 - 5 幹事は、県内各地域から選出され、会務を行う。
 - 6 監事は、会計を監査する。

(顧問)

第6条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、会員のうち宮城県内において長年考古学の調査研究に従事し、功労のあった者、また本会の発展に貢献した者を役員会で推薦し、会長が委嘱する。

(会議)

第7条 本会の会議は、総会、役員会及び代表幹事会とする。

- 2 総会は、年1回開催し会長が招集する。また、役員会が必要と認めた場合は臨時に総会を招集することができる。
- 3 総会では、次の事項を議決する。決議は、総会出席者の過半数とする。
 - (1) 会則の改正
 - (2) 事業報告及び決算、事業計画及び予算
 - (3) 役員を選出
 - (4) その他
- 4 役員会は、必要に応じて会長が招集する。
- 5 代表幹事会は、会長、副会長、幹事長と会務を分担する幹事会の代表者で構成し幹事長が招集する。

(研究部会)

第8条 本会の目的達成のため、会員は必要に応じて研究部会を組織することができる。

(会計)

第9条 本会の運営・事業に係る経費は、会費その他の収入をもって充てる。

- 2 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年の3月31日までとする。

(事務局)

第10条 本会の運営に係る事務を行うため、事務局を設置し、総務幹事会に置く。

(その他)

第11条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は役員会に諮り会長が定める。

付則

この会則は平成10年5月17日から施行する。

宮城県考古学会細則

(会費)

第1条 会費は、一般が4,000円、学生等は2,500円とする。

- 2 学生等とは、未成年者及び学校等に在籍する者をいい、大学院生及び研究生も含むものとする。

(入会・退会)

第2条 本会に入会及び退会する際は、事務局に届け出るものとする。

- 2 会費未納のまま退会する場合は、それまでの会費を精算するものとする。

(役員)

第3条 役員の再任は、2回を限度とする。

2 役員の選出にあたっては、役員会で推薦し、総会で承認を得るものとする。

3 幹事は、県内の各地域から選出するものとし、地域区分は次の通りとする。

なお、各地域の選出人員は、人口割りによるものとする。

地域区分

(1) 県北部(登米・栗原)

(2) 県北西部(古川市、玉造・加美・遠田・志田)

(3) 県北沿岸部(気仙沼市、石巻市、本吉・牡鹿・桃生)

(4) 県中央部(多賀城市、塩竈市、宮城・黒川)

(5) 仙台市

(6) 県南部(名取市、岩沼市、白石市、角田市、柴田・亘理・刈田・伊具)

選出人員

(1) 県北部2名 (2) 県北西部2名 (3) 県北沿岸部3名

(4) 県中央部3名 (5) 仙台市10名 (6) 県南部4名

(幹事会)

第4条 事業を円滑に進めるため、次の幹事会を置く。

(1) 総務幹事会

(2) 企画幹事会

(3) 会誌幹事会

(4) 連絡紙幹事会

2 各幹事会の所属については、幹事の互選とし、会長が委嘱する。

3 各幹事会に代表幹事を置き、所属幹事の互選により選出する。

(幹事会の会務)

第5条 各幹事会の会務分担は、次の通りとする。

(1) 総務幹事会は、会の会計事務、会員の入退会、会議の連絡調整、対外的な窓口に関すること。

(2) 企画幹事会は、各年度の総会、研究会等の企画運営に関すること。

(3) 会誌幹事会は、会誌の編集・刊行作業、会誌の発送に関すること。

(4) 連絡紙幹事会は、連絡紙の編集・刊行作業、連絡紙の発送に関すること。

(旅費)

第6条 単独役員会の出席者には、交通費を支払う。

2 交通費の額は、50km未満は1,000円、50km以上は2,000円とする。

(研究部会)

第7条 研究部会を組織する際は、総務代表幹事に届け出るものとし、総務代表幹事は、

会員への周知を図ることとする。

(会誌・連絡紙)

第8条 原則として会誌は年1回の刊行とし、連絡紙は年4回程度とする。

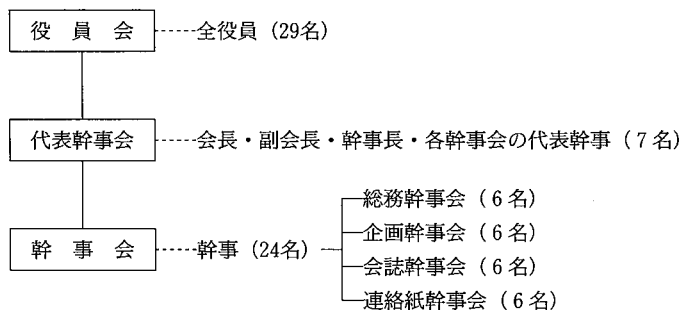
2 会誌・連絡紙の編集方針等に関しては、別に定める。

(総会・発表会)

第9条 総会及び発表会の日程については、当分の間、原則として総会は5月第3日曜日、遺跡調査発表会は12月第2土曜日とする。

付則 この細則は、平成10年5月17日から施行する。

【組織図】



宮城県考古学会入会案内

宮城県考古学会では、宮城県を中心とする考古学の調査研究の発展と普及を図り、会員相互の親睦を深めるため、下記の活動を行っています。

1. 年1回の総会、研究発表会の開催
2. 年1回の宮城県遺跡調査成果発表会
3. 会誌「宮城考古学」の発行
4. 年4回の「宮城県考古学会連絡紙」の発行
5. 研究部会の開催（随時）

宮城県の考古学に関心のある方、宮城県在住者に限りませんので是非ご参加ください。また、会員の皆様にはお知り合いの方々に入会をお誘いください。

入会の方法

入会の申込は、氏名（フリガナ）・住所・電話番号（FAX番号）と職場名・同住所・同電話番号（FAX番号）を明記の上、年会費（一般4000円、学生2500円）を湯便振替にてお送りください。

郵便振替 02210-1-41792

なお、総会開催時にも会場で入会を受け付けております。

阿部正光君の訃報に接して

平成10年9月8日、阿部正光君が享年47歳の若さで他界いたしました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

佐藤 正人

東北学院大学土樋キャンパス81年館の地下室に、発掘した遺物の収蔵室があった。中央に4本の机を並べただけの広々とした部屋が、学生時代、考古学を志す阿部正光君の研究室であり、私たちの屯する場となっていた。たばこ好きの彼は、形のよい贅沢なパイフを左



故 阿部正光氏

手に、思案顔に机に貼り付いて縄文土器を実測し、友人の顔を見ると、新たな発見を楽しそうに話すことが常だった。彼の実測図は、正確さはもとより美しかった。撚り糸を作っては粘土に貼り付け、文様の1つ1つを確かめ、如何に図面に表現しようかと苦心していたように思う。実測にかけては天才肌であったが、陰では神経をすり減らして努力していた。縄文土器の実測に一所懸命になった背景には理由があった。土師器の研究者に「縄文土器は調整方法を記さなくてよいので楽だ」と高言され、負けず嫌いの彼が、我武者羅に始めた挑戦だったと伺っている。そうした“こだわり”こそが彼の「生き方」だった。学生時代から西ノ浜貝塚の魅力に引かれ、整理を通して縄文編年の再考に取り組んでいた彼が、2年前、学院大学より西ノ浜貝塚の整理を委託されたと電話で伝えてきた。静かな言葉の中に、彼の喜びが手に取るようにわかった。25年にわたって後輩と共に定期的に整理を推し進めてきた彼にとって何よりの評価だった。これから花開く矢先の逝去だったことが悔やまれてならない。

大学に入学当初から、妥協しない旺盛な知識欲のかたまりだった。金を工面して友人数名と大酒を呑み、研究の方法論をめぐって口論することも度々だった。父親の名前で、高額な本を購入する豪放な性格も半端ではなかった。しかし、人に対する優しさは人一倍強く、人間味あふれる彼に魅かれ、学習会に瀬峰詣でしていた後輩も多くいた。彼は、地域に生きる人々が生活の中でどう文化財と向き合えるか、その機会を作り受け入れられることに本当の喜びを感じていた。来仙した際、仕事内容を楽しそうに話す姿は、あの研究室で、新たな発見を伝える姿と同じであった。かけがえのない友人を失った思いは消えない。学生時代から宿願であった宮城県考古学会が、大勢の方々の善意と協力で設立したことを、正光君は本当に喜んでいた。設立までの彼の奮戦は、主要な働きとして多くの人々の心を動かしたに相違ない。研究への情熱を引継ぎ、学びあう結びつきを強くしていくことが、故人への報いになると思う次第である。

「宮城考古学」投稿案内

1. 投稿原稿の種類

投稿原稿の種目と規定ページ数は次の通りとします。

- 論文 本文、挿図、写真、表などを含め、20ページ以内。
 内容を400字程度にまとめた論文要旨と英文タイトルをつけてください。
 なお、著者の依頼があれば事務局でも英文タイトルを作成します。
- 研究ノート 研究史や現状における課題などを整理して問題提起する内容のものお
 よび、試論、予察、着想、実験的研究などの短論文。本文、挿図、写
 真、表などを含め、14ページ以内。
- 速報 注目される発掘調査の成果など。10ページ以内。
- 資料紹介 4ページ以内。

※1 1ページはB5版横組みで、横40字×縦32行とします。版面は横13cm、縦20.5cm
 になります。

※2 提出原稿は、ワープロ原稿が望ましいのですが、手書き原稿でも受け付けます。
 本文、写真、挿図、表等の割付を指示した完全原稿で提出をお願いします。ワー
 プロ原稿の場合は、フロッピーもあわせて提出してください。投稿される会員に
 はご連絡いただければ、事務局から割付用紙を送ります。
 原稿割付にあたっては、論文の表題と執筆者の氏名のスペースとして6行分、論
 文要旨のスペースとして10行分を見込んでください。

 註は本文中に（註1）と表記し、文末に註の内容を記載してください。引用文献
 は（近藤義郎 1959）、（須藤 隆 1987 a）のように文中に著者と刊行年次を記
 載し、文末に文献目録を記述してください。文献目録は著者の五十音順に作成し
 てください。文献の記載は著者、刊行年次、文献名、掲載雑誌名、巻、号数（著
 書の場合は著書名、出版名）、引用ページの順で記載してください。同一著者で同
 一年刊行の複数の著作がある場合には刊行月順に小文字のアルファベットを付け
 てください。

（引用文献の記載例）

近藤義郎 1959 「共同体と単位集団」『考古学研究』第6巻第1号 pp13～20

須藤 隆 1987 a 「東日本における弥生文化の受容」『考古学雑誌』第73巻第1
 号pp 1～42

須藤 隆 1987 b 「東日本における弥生文化の成立と展開」『弥生文化の研究』

4 雄山閣 pp201～216

- ※ 3 図版は製図したもので、台紙に貼り、トレーシングペーパーを上にかけて、縮小サイズと書き込み文字を表示して提出してください。図版の割付に際しては、図のタイトル分のスペース（仕上がり幅 5 mm）を確保してください。なお、図等の割付についてご不明な点は会誌幹事会まで問い合わせてください。
- ※ 4 原稿の採否、掲載順序については会誌幹事会にお任せください。原稿及び写真図版は返却します。
- ※ 5 著者校正は 1 回とし、その後は会誌幹事会で行います。

2. 投稿資格

投稿は事務局からの依頼原稿を除き、原則として宮城県考古学会会員に限ります。共著の場合は著者の内 1 人は宮城県考古学会会員であることを条件とします。

3. 原稿締め切り 平成12年 1 月末日

※投稿される方は平成11年11月末日まで、会誌幹事会に投稿論文の概要をお知らせください。

※原稿の採否は平成 2 月末までに著者に連絡します。また、原稿多数の場合は次号掲載となる場合もありますので、ご了承ください。

4. 抜き刷り

論文、研究ノートを掲載の場合は、本誌 1 部と抜き刷り 30 部を進呈します。抜き刷り 30 部以上希望する方は 30 部を超える分について実費負担となります。原稿投稿の際に希望部数を事務局までお知らせください。

資料紹介、速報などで掲載が 4 ページ以上にわたる場合は、抜き刷りを希望する場合に作成いたします。希望の有無を事務局まであらかじめお知らせください。

5. 原稿送付先

〒980—8511 仙台市青葉区土樋一丁目 3 番 1 号

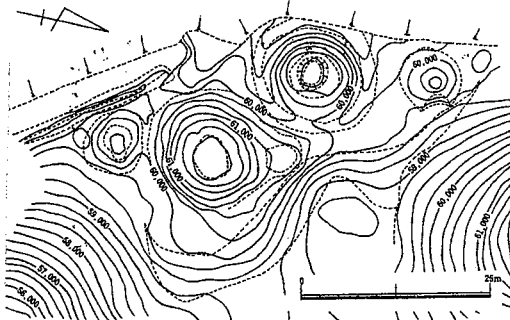
東北学院大学文学部史学科辻研究室気付

宮城県考古学会会誌幹事会 022—264—6363 内線 2269

頁、行	誤	正
12頁14行	特徴的	特徴的
15頁21行	東北大	東北大
18頁14行	わかって	わかって
20頁写真	写真 51 早水台遺跡全景 早水台遺跡遺跡層序	写真 50 早水台遺跡全景 写真 51 早水台遺跡層序
24頁32行	証據	証據
27頁写真	第71図 第72図 第73図 第74図	写真 71 写真 72 写真 73 写真 74
28頁7行	証據	証據
30頁19行	この上の台か	この上の台が
写真	写真 82 山田上の第遺跡	写真 82 山田上の台遺跡
31頁1行	藤村断一さん	藤村新一さん
32頁29行	特色	特色
42頁19行	よるもの多い	よるものが多い
56頁11行	発見されてた	発見された
61頁1行	製作についても	製作についても
63頁4行	仙波伸久	仙庭伸久
64頁9行	起源ついて	起源について
67頁17行	長きわたる	長きにわたる
70頁4行	土器品	土製品
11行	中空張和脚	中空棒状脚
71頁5行	山前遺跡は	山前遺跡の
6行	当遺跡な古墳時代前期	当遺跡で古墳時代前期
10行	床面	床面
74頁3行	中空棒状	中空棒状
4行	柱突棒状	中突棒状
76頁6行	へだてるの要素	へだてる要素
77頁1行	集落	集落
8行	山前遺跡ち	山前遺跡を
76頁6行	定点が一つ	定点の一つ
77頁12行	示したもの	示したもの
80頁3行	シンポジウム	シンポジウム
14行	津島知弘	津嶋知弘
81頁7行	埋蔵文化財研究センター	埋蔵文化財調査研究センター
9行	夕向原古墳	夕向原古墳
19行	スペース	スペース
82頁図1	浪島神社古墳	鹿島神社古墳
88頁8行	古墳が古墳が	古墳が
91頁23行	後世の攪乱	後世の攪乱
92頁17行	留めている	留めている
94頁第8図	夕向原古墳	夕向原古墳
	長泉裏山古墳	長泉寺裏山古墳
95頁3行	中新田町史編纂委員会 1997	中新田町史編纂委員会 1964
7行	前期古墳の中で	前期古墳の中で
27行	1997	1964
98頁8行	つかみきれて	つかみきれて
113頁8行	とく松本	特に松本
114頁16行	人であった	人であった
120頁写真	解体中の現理垣	解体中の現石垣
123頁7行	後援会	講演会
12行	奮われて	奮われた
127頁入会案内	湯便振替	郵便振替
	受け付けあります	受け付けてあります。

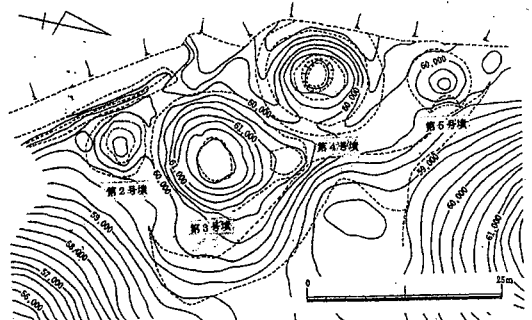
90頁

誤



第6図 円墳群測量図

正



第6図 円墳群測量図